

経済・金融フラッシュ

No.07-143 2008/1/30

鉱工業生産 07年12月～1-3月期は急減速の可能性

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

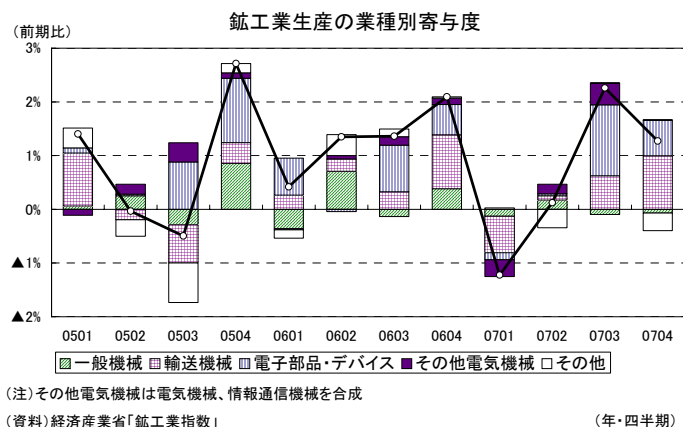
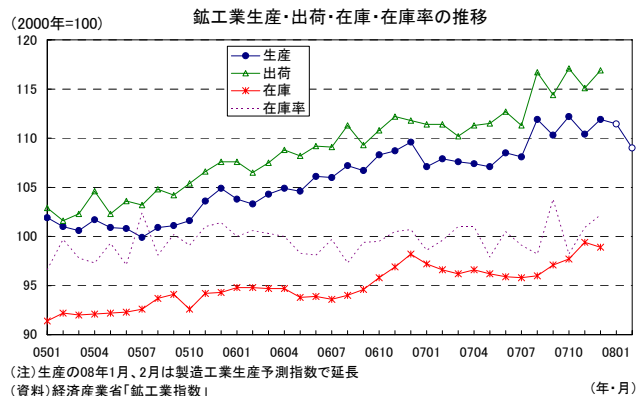
1. 10-12月期の生産指数は3四半期連続の上昇

経済産業省が1月30日に公表した鉱工業指数によると、07年12月の鉱工業生産指数は前月比1.4%と2ヵ月ぶりの上昇となったが、前月時点の予測指数の伸び(前月比4.0%)、事前の市場予想(ロイター集計:前月比2.0%、当社予想も2.0%)を下回った。出荷指数は、前月比1.6%と2ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比▲0.5%と5ヵ月ぶりの低下となった。

12月の生産を業種別に見ると、在庫調整が終了したと見られる電子部品・デバイスが前月比0.9%、輸出の堅調が続く輸送機械が同0.8%となるなど、速報段階で公表される16業種中、13業種が前月比で上昇となった。

10-12月期の生産は前期比1.3%となり、7-9月期の同2.2%に比べれば減速したものの、引き続き高めの伸びとなった。輸送機械が前期比6.5%、電子部品・デバイスが同4.0%の高い伸びとなり、10-12月期の生産指数をそれぞれ1.0%、0.7%押し上げた。

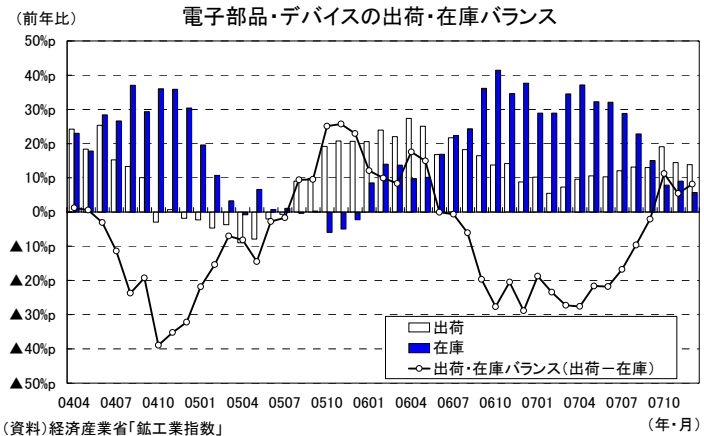
一方、建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みの影響から、業種別には窯業・土石が前期比▲4.0%、財別には建設財が同▲2.6%と大きく落ち込んだ。



2. 1-3 月期の急減速は不可避か

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 0.8%と 5 ヶ月ぶりの上昇となったが、前年比では 5.7%と積み上がり幅が縮小した（11 月：同 9.0%）。出荷指数は前月比▲0.3%と 2 ヶ月連続の低下、前年比では 13.8%の上昇（11 月：同 14.5%）となった。

出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は 8.1%P となり、11 月の同 5.4%からプラス幅が若干拡大した。電子部品・デバイスの在庫調整は終了したと見られるが、この分野は供給能力の増強ペースが速く、世界的な需給動向に左右される面が強い。貿易統計では、これまで好調が続いてきた IT 関連財の輸出に陰りが見られるため、今後の動向には注意が必要だろう。



製造工業生産予測指数は、08 年 1 月が前月比▲0.4%、2 月が同▲2.2%となった。業種別には輸出ウエイトの高い電気機械、輸送機械の減産計画が目立っている（電気機械：1 月：▲1.1%、2 月：▲8.9%、輸送機械：1 月：▲2.7%、2 月：▲0.8%）。米国経済の先行き不透明感の高まり、年初からの株安などを受けて企業心理が大きく冷え込んでいることが、生産計画の抑制につながったものと考えられる。

12 月の生産指数を、1 月、2 月の予測指数で先延ばし（3 月は横ばいと仮定）すると、08 年 1-3 月期の生産指数は前期比▲1.5%の低下となる。1-3 月期の鉱工業生産は 4 四半期ぶりの減産となる可能性が出てきた。

ただし、今年は閏年で 2 月の日数が 1 日多いため、生産額が平年より増える傾向がある。このような日数増の要因を調整するため、今年の 2 月は季節調整済指数を計算する際の季節指数が平年よりも大きくなっている（季節調整済指数＝原指数÷季節指数で計算される。したがって、原指数が変わらなければ、季節指数が大きいかほど季節調整済指数は小さくなる）。

しかし、現時点の企業の生産計画は、日数増によって生産額が増える影響が考慮されていない可能性がある。2 月の予測指数の伸び（季節調整済・前月比）は低めに出すぎている可能性もあるだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)